



●色彩講座・交通環境の色彩

日本色彩学会教育普及委員会の「あたらしい色彩」の講座の紹介です。第6回は、小嶋理江氏（名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所）の、「交通環境の色彩」をテーマにオンライン講座が開催されます。

本講座では、交通環境には、情報伝達や注意喚起を意図した多様な色彩情報が使われてきましたが、最近になって登場した錯視効果を狙った横断歩道やハンプなどの事例を確認しながら、交通環境で色彩が担う役割の重要性と問題点を考える講座です。

◆日時：2024年3月9日（土）

13:30-15:00 オンライン開催（Zoom）

◆テーマ：「交通環境の色彩」

◆登壇者：小嶋理江氏（名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所）

◆受講料：色彩学会会員：2,000円

色彩学会学生会員：1,000円

一般：3,500円 一般学生：2,000円

◆申込 URL：

<https://forms.gle/Xp4CwtAXcTBKeTLt8>

◆申込締切：2024年2月29日（木）

学会のホームページからも申込み多くの学会員の方々の参加を、お願いいたします。

（学会メールニュース No.471 から引用）

源氏物語の色-49「総角（あげまき）」

八の宮が亡くなって一年ほどとなる秋の頃、匂宮（におうのみや）は、宇治の八の宮邸を訪れ、かねてから想いを寄せていた亡き宮の次女、中の君と結ばれる。新婚の三日間は、無理をおして通った匂宮だが、その高貴な身分柄、足が遠のきがちになる。

その後、十月上旬ごろ、匂宮は宇治に紅葉狩りに出かけた。一行は舟で宇治川を上り下りしながら、管絃の遊びに興じた後、中の君の邸の対岸で宴が催された。人それぞれに満足している様子だが、匂宮は中の君のことが気がかりで心が晴れない。その心中など知らず、皆は酔い乱れて夜を明かした。

ひそかに計画した紅葉狩りであったが、噂が広まり思いの他、大勢の宴となり、結局、中の君に逢えぬまま、帰京した。居所まで届く舟遊びの管絃の響きを聞き、来訪を心待ちにした中の君も、匂宮の帰京に落胆する。

この場面では“屋形船の屋根の紅葉を葺いた錦のような飾り”や“宇治川の風物、網代の漁の仕掛けにかかった氷魚（ひお）を、色とりどりの木の葉とまぜてまことに美しいと鑑賞する者”などといったその彩りの表現から、匂宮と中の君の心情とは相反して、雅な行楽の様子が想像される。（平山和香子）

●大辞泉ひろいよみ 56 一き

金色：きんしょく。きんいろ。

錦色：きんしょく。にしきのような美しい色。

銀色：ぎんしょく。ぎんいろ。

金人：きんじん。金属でつくった人の像。仏。仏像。また、金色の仏像。

金子：きんす。金貨。おかね。金銭。

銀子：ぎんす。銀貨。おかね。金銭。

銀煤竹：染め色の名。竹のすすけたような赤黒い色に銀色を加味した色。

金声：きんせい。鐘や鉦などの音色。美しい声。また、貴重な文章。

金星：きんせい。太陽系の二番目の惑星。

金製：金で作ること。また、そのもの。

金石：金属と石。鉱物。また、金属器と石器。

銀雪：銀色に輝く雪。

金扇：地紙に金箔を押した扇。

金銭：貨幣の総称。かね。ぜに。

銀髯：ぎんぜん。銀白色のほおひげ。白髯。

金属：一般に、金属光沢をもち、熱や電気をよく伝え、強度が大きくて折れにくく、展性・延性をもち、常温で固体の物質の総称。重金属と軽金属、貴金属と非金属、遷移金属と非遷移金属などに分類される。

きんだみ：金彩。細工物などを金箔や金泥でいろどること。そうしたもの。（永田泰弘）